

**テーマ：ロイター短観（2010年1月）**  
～製造業の着実な業況改善が続く～

発表日：2010年1月25日（月）

第一生命経済研究所 経済調査部  
担当 エコノミスト 岩田 陽之助  
TEL：03-5221-4525**○製造業DI：改善**

1月ロイター短観（調査期間1月6日～1月20日）の製造業DIは▲19と前月（▲27）より8pt改善した。3ヶ月連続での改善となり、製造業の業況は着実に持ち直しが続いている。

内訳を見ると、素材型、加工型共に改善している。まず、素材型は、▲23と前月（▲34）より11pt改善した。石油・窯業（12月▲45→1月▲20）、鉄鋼・非鉄（12月▲67→1月▲33）などの上昇が目立つ。次に、加工型は、▲17と前月（▲22）より5pt改善した。電機（12月▲19→1月▲13）、金属・機械（12月▲55→1月▲45）、食品（12月+13→1月+22）が改善した。電機は、アジア向け輸出の増加が業況改善の背景にあると考えられる。新興国を中心としたIT需要の回復などを背景に、半導体電子部品などの輸出が増加している。また、鉄鋼・非鉄などについても、好調なアジア向け輸出が業況改善の主因であると考えられる。

このように、アジアの景気回復が業況改善に結びついている業種が多く見られる一方、国内関連業種は振るわない。コメントにも、「依然として設備投資需要が回復していない」（機械）といった国内の需要不足を指摘するものが見られた。内外の景気格差を反映する形で、業種間においても業況改善に差が見られる結果となっている。

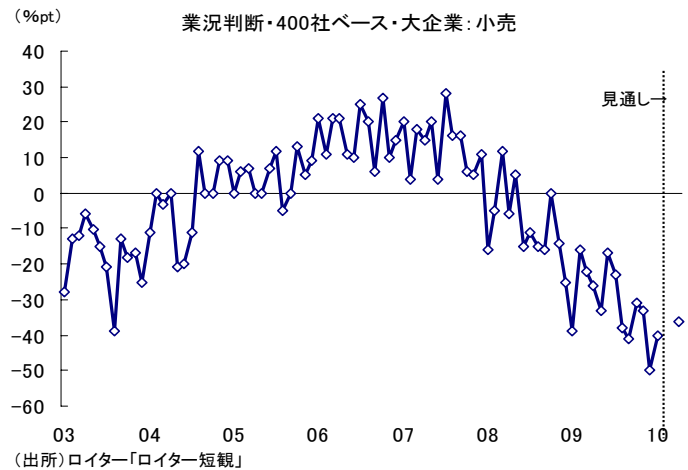
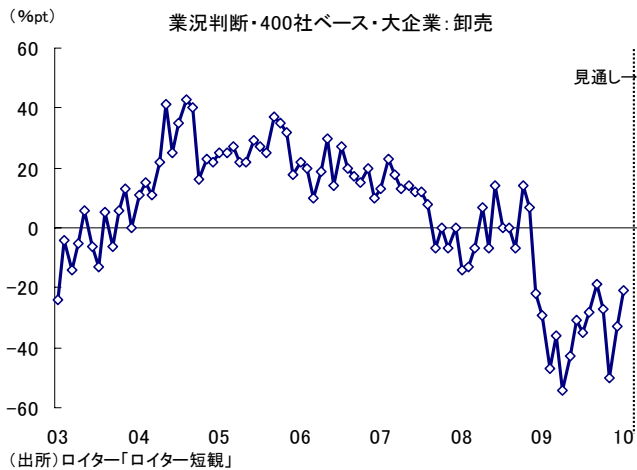
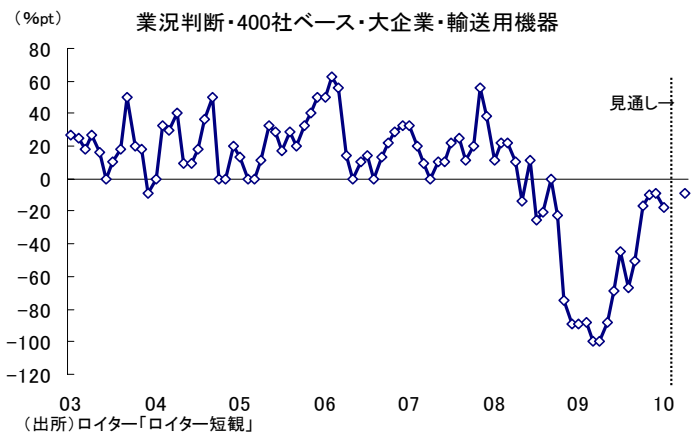
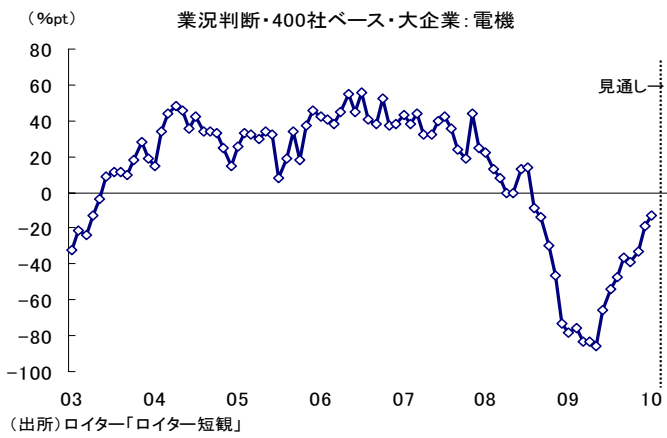
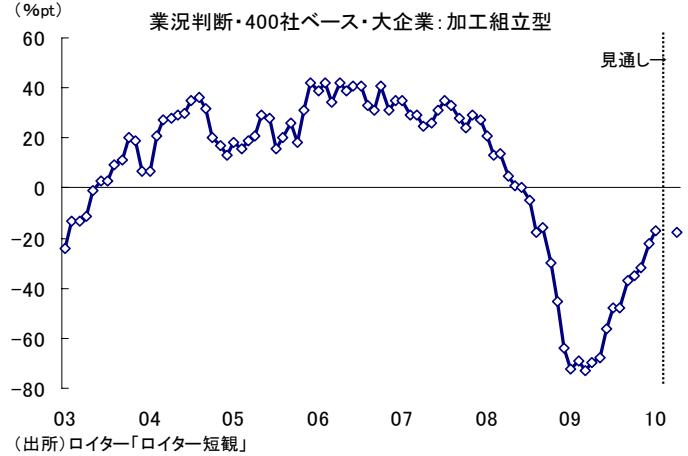
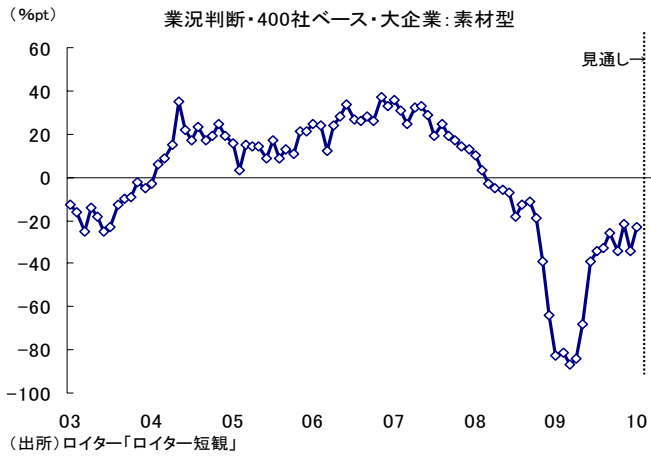
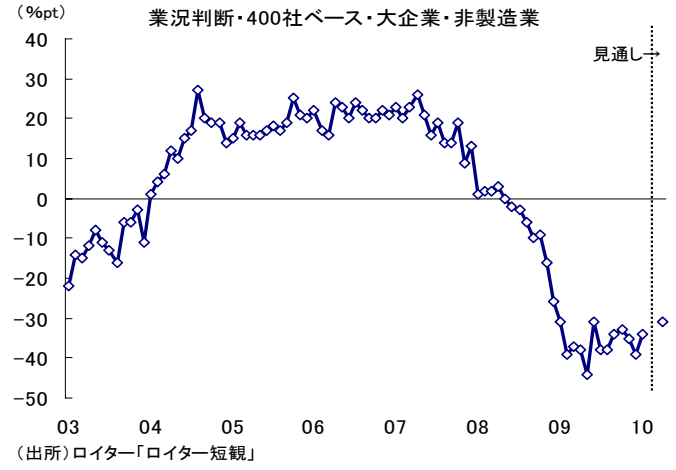
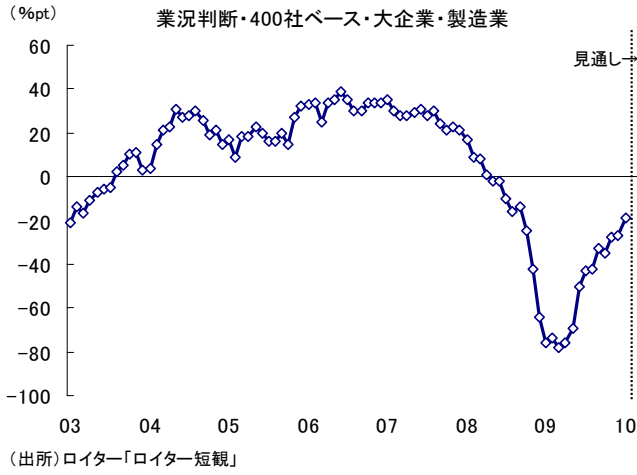
先行きについて、3ヶ月後の見通しは+3ptの改善が見込まれている。ここまで着実に業況改善が続いてきたことに比べると、やや慎重な見通しである。中国を始めとした海外経済の回復により、輸出の持ち直しは続く予想されている一方、在庫調整の反動増が一巡すること、日本の政策効果が限界的に弱まってくることや円高への警戒感などから、先行きも緩やかな回復が予想される。

**○非製造業DI：改善**

非製造業のDIは▲34と前月（▲39）より5pt改善した。3ヶ月連続で業況悪化が続いていた非製造業であるが、単月では持ち直す形となっている。もっとも、3ヶ月前（▲33）に比べると1ptの改善に止まっており、趨勢としては底ばい圏での推移が続いていると考えられる。

内訳を見ると、卸・小売や不動産・建設などが改善した。持ち直しが続く製造業に牽引される形で卸売（12月▲33→1月▲21）の業況が改善したほか、昨月に年末賞与の大幅減少を背景に悪化した小売（12月▲50→1月▲40）も今月は上昇した。また、住宅着工の悪化に歯止めがかかりつつあることを受け、不動産・建設（12月▲47→1月▲41）も上昇している。一方、情報サービス（12月▲27→1月▲36）はデフレ傾向で単価が低下することによる採算悪化などから低下した。デフレに関するコメントは、「値下げ競争による売上高の減少」（小売）など、他の業種においても見られ、非製造業の幅広い業種において価格下落に苦しんでいる状況が伺える。

先行きについて、3ヶ月後の見通しは+3ptと慎重な見通しとなっている。製造業の回復が波及する形は続くと思われる一方、①雇用過剰感や設備過剰感により内需の弱さが持続すること、②需給面からの物価下落圧力が続くことによる採算悪化などから、非製造業の業況回復は限定的なものに止まると考えられる。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。